

豊岡の伝承歌の採譜と分析

『北但大地震の唄』に見られる傾向

Scoring and Analysis of Music Lore in Toyooka

The Tendency shown in the songs of Hokutan Great Earthquake

茨木 金吾

Kingo Ibaraki

はじめに

兵庫県北部に位置する豊岡の伝承歌として、筆者は祖母から大正14年5月に発生した大地震の惨状を歌にした『北但大地震の唄』を聴かされ、断片的にはあるが祖母の歌ってくれたその歌を記憶していた。

再びその歌を終止まで記譜された譜例として目にしたのは“たじまうたまつり実行委員会”の沖野芳郎氏から提供を受けた楽曲群の中からであり、その譜例は但馬讃歌の会の方々を中心となって採譜されたものだった。

譜例として読譜し、演奏をしていく中で楽曲の構成のされ方に軍歌として知られている戦歌『戦友』の楽曲構成との同一性を多々感じることができた。それはリズムと音列の進行から漠然とではあるが感じられるものであり、調査する意義を感じるものであった。

比較調査の対象とした戦歌『戦友』が作られたのは明治38年、まだ日露戦争が続いているときに作られた楽曲であり、『北但大地震の唄』は北但大地震の後、大正末期から昭和初期に作られたものであり、その作成期に相違はあるものの何らかの関連があることが推察できる。

これらの楽曲を比較調査し、多くの同一性を得ることにより、豊岡の伝承歌の一つである『北但大地震の唄』が明治に作られた軍歌（戦歌）の作曲手法に大きく影響を受けたものであると推測をすることが可能であると捉え、戦歌『戦友』と同じ時代に作られ、一般によく知られている11曲の軍歌を選曲し、それらを比較分析することによって『北但大地震の唄』との楽曲構成の同一性を抽出し、それら抽出して得られた結果から豊岡の伝承歌の一つであるこの楽曲の構成のされ方を考察することとした。

調査方法

○調査楽曲

調査対象とした『北但大地震の唄』は、たじまのうた第1集に採譜データとして掲載されている

譜例¹⁾をもとに構成したものであり、比較対象の楽曲として使用した軍歌(戦歌)はYouTube Japanにアップロードされている当時のレコードからのデジタル化された音源であり、その音源から主旋律を採譜し、それらを記譜したものである。

○調査方法

【採譜】 調査対象となる『北但大地震の唄』は、レコード等による音源としてのデータは残っておらず、当時を知る者も高齢であり、その存在を知る者も極めて少なく、その曲の全体の構成を知ることが難しいと考えられていたが、但馬讃歌の会が中心となり情報提供者を探すことから始め、豊岡市岩井の今井延子さんから歌を採譜し、譜例として書き上げたもの¹⁾を使用することにした。

また、比較対象とした楽曲についてもその元音源であるレコードは入手し難く、レコード音源がアップロードされているYouTube Japanより楽曲内の主旋律を採譜し、それを譜例として使用した。

【分析】 採譜した楽曲を律動(リズム)、音階、拍子、旋律線(メロディーライン)の4方向から調査対象楽曲である『北但大地震の唄』と比較対象楽曲である軍歌(戦歌)11曲を楽曲分析し、それらの楽曲から得られた同一性を抽出することによって調査楽曲の構成のされ方を考察した。

調査結果及び考察

採譜した調査対象楽曲が譜例-1の『北但大地震の唄』であり、その調査楽曲と比較するために採譜した楽曲が明治38年に作られた譜例-2の戦歌『戦友』、明治24年に作られた譜例-3の『道は六百八十里』、明治30年に作られた譜例-4の『敵は幾万』、明治28年に作られた譜例-5の『水雷艇の夜襲』、明治37年に作られた譜例-6の『日本海軍』、明治37年に作られた譜例-7の『日本陸軍』、明治27年に作られた譜例-8の『婦人従軍歌』、明治44年に作られた譜例-9の『歩兵の本領(※『アムール河の流血や』と同一譜)』、明治35年に作られた譜例-10の『陸奥の吹雪』、明治27年に作られた譜例-11の『豊島の戦』、明治27年に作られた譜例-12の『黄海の大捷』である。

それらを表にしたものが下の調査楽曲一覧である。

表-1 調査楽曲一覧

譜例	楽曲名	作詞者	作曲者	作成年
1	北但大地震の唄	不詳	不詳	不詳
2	戦歌『戦友』	真下飛泉	三善和気	明治38年
3	道は六百八十里	石黒行平	永井建子	明治24年
4	敵は幾万	山田美妙斎	小山作之助	明治30年
5	水雷艇の夜襲	大和田建樹	瀬戸口藤吉	明治28年
6	日本海軍	大和田健樹	小山作之助	明治37年
7	日本陸軍	大和田建樹	深沢登代吉	明治37年
8	婦人従軍歌	加藤義清	奥好義	明治27年
9	歩兵の本領 同一曲(アムール河の流血や)	加藤明勝	栗林宇一	明治44年
10	陸奥の吹雪	落合直文	好楽居士	明治35年
11	豊島の戦	池辺義象	納所弁次郎	明治27年
12	黄海の大捷	明治天皇御歌	田中穂積	明治27年

譜例－1¹⁾

北但大地震の唄

作詞・作曲不詳

た い し ょ う じ ゅ う よ ね ん は る ご が つ
に ー じ ゅ う さ ん に ち の ま ひ る な か
お こ る お こ る だ い じ し ん
あ わ れ し ほ く た ん だ い じ し ん

譜例－2

戦歌「戦友」

作詞：真下飛泉 作曲：三善和氣

こ こ は お く に を な ん び や く り は な れ て と お き ま じ ゅ う の
あ ー か い ゆ ー ひ に て ら さ れ て と も は の ず え の い し の し た

譜例－3

道は六百八十里

作詞：石黒 行平 作曲：永井 建子

み ち は ろ つ び や く は ち じ ゅ う り な が と の う ら を ふ な で し て
は や た と せ を ふ る さ と の や ま を は ら か に の ぞ む れ は
く も り か ち な る た び の そ ら は ら さ に や な ら め ひ の も と の
み く に の た め と お も い な ば つ ゆ よ り も ろ き ひ と の み は
こ こ が い の ち の す て ど ろ ろ み に は た ま き ず つ る ぎ ず

譜例一 4

敵は幾万

作詞：山田 美妙斎 作曲：小山 作之助

て き は い く ま ん あ り と も す べ て う が ふ の せ い な る ぞ
 う が ふ の せ い に あ ら ず と も み か た に た だ し き ど う り あ り
 じ ゃ ハ そ れ せ い に か ち が 一 た ー く
 ち ょ く ハ き ゃ く に ぞ か ち ぐ ー り ー の
 か た き こ ころ の い っ て つ は い し に や の た つ た め し あ り
 い し に た つ や の た め し あ り な ど て お そ る る こ と や あ る な
 ど て た ー ち ー た ふ こ と や あ る

譜例一 5

水雷艇の夜襲

作詞：大和田 建樹 作曲：瀬戸口 藤吉

つ き は か く れ て う み く ら き に が つ よ つ か の よ る の そ ら
 や み を し る べ に さ ぐ り い る わ が ぐ ん く せ き の す い ら い て い

譜例一 6

日本海軍

作詞：大和田 健樹 作曲：小山 作之助

し め ん う み て か こ ま れ し わ が し き し ま の あ き つ し ま
 ほ か な る て き を ふ せ ぐ に は り く に 一 ほ う だ い う み に ふ ね

譜例一 7

日本陸軍

作詞：大和田 建樹 作曲：深沢 登代吉

て ーん にか わり て ふ ぎ を う つ ち ゆ う ゆ う む そ う の わ が へ い は
 か ん こ の こ ー え に お く ら れ て い ま ぞ ー い で た つ ふ ぼ の く に
 か た ず は い ー き て か え ら じ と ち か う ー こ こ ろ の い さ ま し さ

4度進行 4度進行
 4度進行 4度進行 4度進行

譜例一 8

婦人従軍歌

作詞：加藤 義清 作曲：奥 好義

ほ づ つ の ひ び き ー と お さ か る あ と に は む し も ー こ え た て ず
 ふ き た つ か ぜ は ー な ま く さ く ぐ れ な い そ め し ー く さ の い ろ

4度進行 4度進行
 4度進行 5度進行 4度進行 4度進行 4度進行

譜例一 9

歩兵の本領

作詞：加藤 明勝 作曲：栗林 宇一

ば ん だ の さ く ら か え り の い ろ は ー な は よ し の に あ ら し ふ く
 や ま と ー お の こ と う ま れ な ば さ ん へ い せ ん の ー は な と ち れ

4度進行
 オクターブ進行 4度進行 4度進行 4度進行

譜例一 10

陸奥の吹雪

作詞：落合 直文 作曲：好楽居士

し ら ゆ き ふ か く ふ り つ も る は っ こ だ さ ー ん の ふ も と ば ら
 ふ く や ら っ ば の こ え ま で も こ お る ば か り の あ さ か ぜ を
 も の と も せ ず に お お し く も す す み い で た る い ち だ い たい

4度進行 4度進行 4度進行 5度進行
 4度進行 4度進行 オクターブ進行
 4度進行 4度進行 4度進行 4度進行 5度進行

譜例-11

豊島の戦

作詞：池辺 義象 作曲：納所 弁次郎

とりの はやしに かぜたち て いききの くもの あしはやし
 よしの一 なにわー あきつしま さぐるー がざんのみちすがら
 しちがつ に七ゆう ゆうごに ち あかつき ふかく たつきりの
 ほのかに みゆる てきかん は なにおう さいえん こうおつごう

譜例-12

黄海の大捷

明治天皇 御歌 作曲：田中 穂積

ころは一 きくづき なかはず ぎ わがてい こくの かんたい は
 たいどう こうを ふなでして てきの ありかき さぐりつ つ

これらの採譜した楽曲を律動（リズム）、音階、拍子、旋律線（メロディーライン）の4方向から分析を試みた結果、調査対象楽曲である『北但大地震の唄』と比較対象楽曲である軍歌（戦歌）との間に次のような多くの同一性を見ることができた。

その結果を一覧にしたものが表-2の調査楽曲分析表である。

1. 律動（リズム）

すべての楽曲が付点八分音符と十六分音符の組み合わせにより一拍をなすリズムを主体に構成されており、律動性の高さを見てとることができた。

テンポは、大半の曲が♩=114程度の速度で設定されていることから律動性を活かした躍動感のある楽曲構成をしていることがうかがえる。

2. 音階

調性は譜例-2の戦歌『戦友』のみが短調であり、その他の曲は長調で作られたものであった。

さらに、その音階については譜例-3の『道は六百八十里』のみが通常の長音階で構成されているものの、残りの楽曲は四七（ヨナ）抜き長音階（譜例-2の戦歌『戦友』は短音階）とその変形である四（ヨ）抜き長音階、七（ナ）抜き長音階で構成されており、音階においての同一性を見る

ことができた。

3. 拍子

拍子は譜例－4の『敵は幾万』と譜例－7の『日本陸軍』が四拍子であり、残りの楽曲は二拍子で構成されており、四拍子も二拍子の連続ととらえることができることから、拍子においても二拍子系で作られた楽曲であるという同一性を見ることができた。

表－2 調査楽曲分析表

譜例	調査楽曲名	調性	音階	拍子	旋律線 ※音名横の()内の数字は跳躍進行の回数を示す。
1	北但大地震の唄	ハ長調	四七抜き長音階 *F,B音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・G-C(1)/D-G(1) *5度(完全5度)・・・C-G(2) *オクターブ(完全8度)・・・C-C(1)
2	戦歌『戦友』	ト短調	四七抜き短音階 *C,F音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・D-G(1) *6度(長6度)・・・C-A(1) *オクターブ(完全8度)・・・D-D(1)
3	道は六百八十里	変口長調	長音階	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・F-B \flat (2)/C-F(5)/D-G(2) *5度(完全5度)・・・B \flat -F(5)/C-G(2) *6度(長6度)・・・B \flat -G(1)※上行 *6度(短6度)・・・A-F(1)※下行 *オクターブ(完全8度)・・・B \flat -B \flat (1)
4	敵は幾万	ハ長調	四抜き長音階 *F音抜き ※終止2小節前までは四七抜き長音階	4/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・G-C(2)/D-G(6)/A-D(2) *5度(完全5度)・・・D-A(2) *オクターブ(完全8度)・・・C-C(3)
5	水雷艇の夜襲	ト長調	七抜き長音階 *F \sharp 音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・D-G(4)/A-D(2)/G-C(1) *5度(完全5度)・・・G-D(1)
6	日本海軍	ハ長調	四七抜き長音階 *F,B音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・G-C(1)/D-G(1)/A-D(1) *5度(完全5度)・・・G-D(1)
7	日本陸軍	ト長調	四七抜き長音階 *C,F \sharp 音抜き	4/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・D-G(4)/A-D(1)
8	婦人従軍歌	ト長調	四七抜き長音階 *C,F \sharp 音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・D-G(3)/A-D(1)/E-A(1)/B-E(1) *5度(完全5度)・・・D-A(1)
9	歩兵の本領	ヘ長調	七抜き長音階 *E音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・C-F(2)/G-C(1) *オクターブ(完全8度)・・・C-C(1)
10	陸奥の吹雪	ト長調	四七抜き長音階 *C,F \sharp 音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・D-G(2)/B-E(3)/A-D(3)/E-A(1) *5度(完全5度)・・・D-A(2) *オクターブ(完全8度)・・・D-D(1)
11	豊島の戦	ト長調	七抜き長音階 *F \sharp 音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・D-G(3)/A-D(3)/B-E(2) *オクターブ(完全8度)・・・D-D(1)
12	黄海の大捷	ト長調	四七抜き長音階 *C,F \sharp 音抜き	2/4	跳躍進行 *4度(完全4度)・・・D-G(2) *5度(完全5度)・・・D-A(3)/G-D(1)

4. 旋律線 (メロディーライン)

全ての楽曲の旋律線において、4度以上の跳躍進行が多くみられ、順次進行だけで構成された楽

曲は見られなかった。フレーズの変わり目やフレーズ内での跳躍が多々見られ、4度（完全4度）、5度（完全5度）、6度（長6度、短6度）の跳躍、楽曲によってはオクターブ（完全8度）の跳躍をする旋律線もあり、その中でも4度の跳躍進行は楽曲全てにみられ、旋律線においても同一性が確認できた。

このように律動（リズム）、音階、拍子、旋律線（メロディーライン）の4方向から分析を試み、それらすべての構成のされ方に同一性が見られたことから、調査対象楽曲である『北但大地震の唄』は明治に作られた軍歌と同じ手法を用いて作られた楽曲であると結論付けることができる。

要 約

豊岡の伝承歌として、その存在を歌として伝承できる者も少なくなる中、採譜された『北但大地震の唄』を“たじまうたまつり実行委員会”の沖野芳郎氏より入手したことから始まった調査であったが、その調査対象楽曲を目にし、読譜することにより、その旋律線から戦歌『戦友』の旋律線との同一性が漠然とではあるがイメージできた。このイメージによる楽曲間の同一性を裏付けるために、比較対象楽曲を戦歌『戦友』を含む明治に作られた数多くの軍歌の中からよく知られている11曲に設定し、調査対象楽曲とそれら軍歌との関係を律動（リズム）、音階、拍子、旋律線（メロディーライン）の4方向から探したが、それらの調査結果は調査前にイメージした旋律線の同一性だけでなく、律動（リズム）、音階、拍子においても多くの同一性を含んでおり、そのことは楽曲間の同一性という漠然としたイメージを現実のものとして確実に裏付けるものであった。

調査した楽曲全ての律動（リズム）は、付点八分音符と十六分音符の組み合わせにより一拍をなすというリズムが主体となり構成されていることから律動性の高さを示しており、音階についても1楽曲のみ通常の長音階で構成されているものの、四七（ヨナ）抜き長音階（譜例-2の戦歌『戦友』は短音階）とその変形である四（ヨ）抜き長音階、七（ナ）抜き長音階で構成されており、律動面、音階面から同一性が見られた。

さらに、拍子は2楽曲が四拍子であるものの、残りの楽曲は二拍子で構成されており、四拍子も二拍子の連続ととらえることができることから、拍子においても同一性が見られ、旋律線（メロディーライン）についても4度以上の跳躍進行が多くみられ、順次進行だけで構成された楽曲は見られず、4度（完全4度）、5度（完全5度）、6度（長6度、短6度）の跳躍、楽曲によってはオクターブ（完全8度）の跳躍をする旋律線が見られ、中でも4度の跳躍進行は調査楽曲全てにみられたことから、旋律線における同一性が確認できた。

これら4方向からの得られた多くの楽曲間での同一性から調査楽曲である『北但大地震の唄』は明治に作られた軍歌と同じ手法を用いて作られた楽曲であると結論付けるに至った。

最後に、本稿作成にあたって、“たじまうたまつり実行委員会”沖野芳郎氏に資料提供して頂きましたこと、深謝いたします。

引用文献

- 1) たじまのうたまつり実行委員会：たじまのうた 第1集、57, たじまのうたまつり実行委員会, 2006

参考文献

- 1) 友田真一 尾形多藻津 小谷茂夫 大垣三郎 中嶋忠雄 山本兵治 松岡重夫 足立栄一 宮岡房次郎：豊岡民話耳ぶくろ、1-256, 豊岡市老人連合会（兵庫）, 1975
- 2) 小泉文夫：日本傳統音楽の研究、1-278, 音楽之友社（東京）, 1960
- 3) 田中健次：一目でわかる日本音楽入門、1-175, 音楽之友社（東京）, 2003
- 4) 黒沢隆朝：楽典、11-227, 音楽之友社（東京）, 1966
- 5) 東洋音楽学会：東洋音楽研究第20号、1-192, 音楽之友社（東京）, 1969
- 6) 服部龍太郎：日本民謡全集、1-320, 角川文庫（東京）, 1965
- 7) F.T.Piggott, 服部龍太郎訳：日本の音楽と楽器、1-253, 音楽之友社（東京）, 1968
- 8) 吉川英史：日本音楽の歴史、1-469, 創元社（大阪）, 1971
- 9) 町田嘉章・浅野建二：日本民謡集、1-220, 岩波文庫（東京）, 1960
- 10) たじまのうたまつり実行委員会：たじまのうた 第1集、1-100, たじまのうたまつり実行委員会, 2006
- 11) たじまのうたまつり実行委員会：たじまのうた 第3集、1-100, たじまのうたまつり実行委員会, 2009